

---

# 無駄慰

滑稽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

無駄慰

### 【ZPDF】

Z0134A

### 【作者名】

滑稽

### 【あらすじ】

茹だるような夏。少年は静かに問いかける。終わるのか と

壊れてしまえばいい。

羽螺羽螺に薔薇薔薇にバラバラに。

求めるのは、要求するのは懇願するのは  
……。

自我の破壊　　あ、簡単な事なのに。

なんでもいい。

どうでもいい。

終わりたい。

終わりたい。

終わりたい。

苦しいんだよ、痛いんだよ、止まらないんだ。

留まれないんだ……。

誰かに救いを求めてしまってしちゃう。

駄目なのに駄目なのに……。

自分で終わらせなきや、他人を頼つてなんかいけない。  
それだけはいけない事　。

汚いもの。腐っているもの。醜いもの。それなのにそれなのに……

……僕は好きになってしまったのです。恋い焦がれて想つて想つて。この気持ちに何と名前を付ければよかつたのですか？これが『恋』これが人を愛するという事。軀がキツい君が誰かのモノになつてしまふのでは無いか。 という焦燥感。ぢりぢり喉を焼く だから。だからだからだから僕は君を破壊しました。髪を引き抜いて安っぽいナイフで皮膚を幾度も抉り時折君に口付けを与えたながら。何回も何回も叩きつけ君の甘い狂おしい程の蜜を舐めとり。右手はちぎれて何処かにいつてしまつたから左手で君の右目をくり貫いたよ硝子の破片は僕の左手も染めあげてしまつたけど。同じように君の右手も染めあげられているから。ああ君が見えにくいよ。暗闇が僕に压しかかってくるよ。僕は困ったように君に微笑んだ。君は僕と全く同じに微笑んだ。それだけそれだけ。人を愛せなかつた僕にはピッタリの終わり形。残つたのは割れた鏡と僕だけ全てが燃えつくような夏のある日に僕はやつと壊れて終わられたのです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0134a/>

---

無駄慰

2010年10月14日20時51分発行